

公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学評価委員会

令和5年度第1回 会議録

令和5年7月11日(火)
静岡社会健康医学大学院大学 大教室

午後1時26分開会

【会議開始前】

県事務局より、以下を案内

- ・委員5名全員の出席。会議成立

【議題 令和4事業年度に係る業務実績の検証について】

- ・県事務局が事業年度評価全体の流れについて説明
- ・法人が実績報告書を説明

〈法人への質疑の概要〉

○委員

原著論文の発表も非常に多く、しかもそれぞれ非常に質が高い。すばらしいと思う。

○委員

学位取得者15名について伺いたい。19名が入学されて、そのうち15名が修了というのは、法人としてどのように捉えているか。

○理事長兼学長

19名が1期生で入学し、修了したのは15名。4名については業務多忙が主な理由で休学、長期履修となっている。

諸般の事情があって、全員が学位取得というわけにはいかなかったが、概ね19名のうち15名が2年で修了したことは、一応よかったのではないかというふうに自己評価している。

○委員

10名の定員に対して16名が入学したことが「S」評価されることについて伺いたい。本来10名の定員で、10名が入ったときに最高の教育を受けられるという教育体制が整っていたとすると、16名入学されたことはどう評価したら良いか。

○理事長兼学長

当大学は非常に恵まれた環境で、大学の面積は文科省の規定より遙かに大きく、教員数も収容定員より多く、マンツーマン以上の環境にある。

そういった意味で、教育研究環境では、十二分にその定員以上の教育研究指導ができると判断をし、入学希望者も多くいたことから、今回令和4年度は16名入学させて指導しようという決断をした。

○委員

地域との連携をしっかりと進めることと、地域への還元もできていると思う。

○理事長兼学長

静岡県や市町などの地方公共団体、さらには企業から最近はいろんな問い合わせがきている。学内に地域・産官学連携委員会というものを設置し問い合わせの窓口としている。その中で、色々な成果の還元・実装が可能になってきている。本学のミッションの1つである成果の地域への還元ということは十分に果たしており、今後さらに発展していくと考えている。

○委員

卒業後の学生との連携体制がきちんと動き出しており、大変心強い。

もう1つは、研究の地域への還元が、うまく行われている。

さらに専門的な知識を豊富に持った学生が、課外授業として教員とともに地域に出向いて地域の住民と触れ合う機会があるということも非常に高く評価をしたい。

また、委員会を整理され、研究不正防止委員会を設置する等、いい組織に向けて動いているのを感じた。

○委員長

2年間で15名の学位取得者を出している。大変立派な成果を上げられたと思う。定員を大幅に超える方を受け入れ、修士論文を作成させるのは、大変難しい仕事だと思う。優秀な教員の方々が集まっているため可能になっていると思われるが、教員の労働面では特に問題はないか。

○理事長兼学長

何も論文を書いたことがない人が、2年間で学習しながら論文を書くというのは、大変な作業だということを、初めて身にしみて分かった。

その中で、1期生、2期生が非常に頑張った点と、先ほど述べた通り、マンツーマン程度の教育研究環境があるため、熱心な教員が十分に貢献してくれた。

教員の過重労働のことは、各教員が裁量労働制の下、勤務時間の裁量をもっていることが1つ。

もう1つ、個人的に思うのは、学部がないため教育の負担はかなり少ない。普通の4年制の学部があると授業や実習はすごく多いが、それが少ないという点は大きな強みで、その分の時間を自分の研究に割くことができる。学部教育の負担がないことが、労働過重を強いることなく研究の一環と修士論文の指導の両立を可能にしている。

○委員長

修了生へのフォローアップを行い、引き続き大学と関係を保つことに十分配慮することが大事だと思う。修了生が社会でどれだけ活躍するかが、今後の大学院の評価を上げる。今後ともフォローアップをしっかりとやっていただきたい。同窓会組織はあるか。

○理事長兼学長

この間委員会を立ち上げて、委員長も決まって、基本的には学生が自主的にやっている形、私どもはそれをお手伝いする。

○研究科長

1期生が卒業する段階で、学生に「同窓会組織をつくってください」ということでお願いして立ち上げてもらった。学生の委員会のため、大学として何か関与するということはないが、もし何かしてほしいということがあったらサポートしていくというような形でやっていこうと思っている。

○委員長

多くの外部資金を獲得されているが、寄附講座の申し出に当たって、寄附者と大学とのイニシアティブやCOIについて、審査機関のようなものはあるか。

○理事長兼学長

学内の運営委員会で、審査をいたしました。学外の評価は今のところ受けておりません。

○委員長

他大学では、寄附者が企業である場合、企業からプレッシャーがかかって、トラブル

になっているような例もある、今後はそういうことに留意いただきたい。

○理事長兼学長

御指摘ありがとうございます。

- ・法人へのヒアリング終了、法人関係者退席
- ・令和4事業年度に係る業務実績に関する検証に関する事務局説明

○委員長

委員会として、自己評価と事務局案に基づき最終評価を決定していく。

議論のポイントとして、1つには、法人の自己評価から評価を変更すべき点があるかということ。もし変更する場合は、その理由についても伺いたい。

また、第2点として、評価と関係なく法人に対して評価委員会として意見を申し述べること。「よく頑張っている」と評価したり、「もっと頑張ってもらいたい」といった、御意見を頂きたい。

○委員

寄附金について件数が9件もあり、「SS」評価でも良いのでは。こんなにたくさん取れるということそうそうはない。「SS」が自己評価や事務局案でなかったのも、1つぐらいあっても良いのではないか。

○委員

伝統ある大学でも、寄附講座でこれだけのお金を獲得するのは簡単ではない。新しく設立した大学院が、こんなに早くこれだけの額の寄附講座というのは、特記すべきことであることは間違いない。「SS」にするかどうか、十分に議論する価値はある。

○委員

いろいろな評価が高いとすると、当初の目標設定がこれで良かったのかと立ち戻らないといけないところがあり、その辺をどう考えるかというのもひとつ課題だと思う。

○委員

入学者数について10人定員のところ、足りないのは当然だが、多ければいいという数

字でもない。開学から2年が経過し、入学者が定員数の1.5倍を超えていることをどう評価したら良いか。

○県事務局

まず、定員数を10名とした考え方だが、開学準備をするときに、他の公衆衛生系の大学の定員数や状況を参考にしつつ、学生として見込まれるだろう方にアンケートを取った。その中で最終的に10名としている。

先ほど理事長から話があったように、本大学院大学は、公衆衛生系は非常に多種多様な分野での研究者がいるということもあり、学生の定員数以上の教員数がある。教育の人材の数としては十分足りている。

またハード面でのキャパシティとしても、面積的にも、機能的な部分も十分に足りている。

文科省的には大学院の定員数に上限は、特に定められていない。一方、教育と研究の質を落とさないという中で、「2倍を超えない程度」としている。実際、開学年度が19名、今年度については16名入学をしているが、それに対するキャパシティなり質の担保というものは十分とれていると思っている。

ただ、去年19名で「SS」にしたときにも、この議論はあり、今回16名ということについては「S」が妥当であると考えた。

○委員長

学部定員は御承知のように、文科省が1.1倍まで等、非常に厳しく管理しているが、大学院は上限がないということか。

○県事務局

その通り。

今は非常にありがたいことに、倍率が2倍を超えているが、他の大学、特に公衆衛生では、定員を満了す上で御苦労されていると聞いている。定員を増やしたらいいかという話も出るが、今のところは10名をもってまずは進めていきたい。

○委員

日本では最先端のゲノム研究をする基礎研究は人気があるが、社会医学はそこまで人気がない。世界では社会医学で有名な大学がありそこにみんな集まる。

社会医学で、今注目されているのはコホート研究です。地域の集団の動向を経時的に研究すると、面白い結果が出てくるのではと期待されている。今まではコホートを研究

するという概念があまりなく、全般的に社会を見ていただけだったのですが、ある地域の集団全体をつかまえて、さらにゲノムを見るという横串を入れながら集団がどうなっていくか、結果の差異が何に由来するかを見ていこうということになると、俄然「面白い！やってみようかな」という気になる。静岡にはそれがちゃんとあるのが大きな魅力の1つ。

加えて教員も、注目されている人を連れてきている。そういう方々が来て「やるよ」と言ってくれれば、ますます人気が出てくる。そういう要因の積み重ねで、入学希望者が増えている。そういうのがなければ、10人もなかなか集まらない。

○委員

私がいた病院のドクターがこの大学院大学の1期生。続いてその方の同僚が2期生で入っているという話を聞いた。今までは外からの情報で入ってきたのが、実績を持った卒業生からまたつながってきており、非常に強みのある大学院だと感じた。

- ・ 議題終了後、事務局より地方独立行政法人法の改正について報告。

午後3時10分閉会